

## 第6回那須塩原市総合計画審議会

開催年月日：平成24年2月2日

開会時間：午後1時30分

開催場所：西那須野庁舎301・302・303会議室

### 委員

No.	氏名	出欠	No.	氏名	出欠
1	安在隆芳	○	16	酒井芳男	○
2	飯島恵子	○	17	佐藤一則	
3	生駒憲一	○	18	佐藤友幸	
4	伊澤昭夫	○	19	塩水常男	○
5	石森則夫	○	20	関谷直人	○
6	磯忠昭	○	21	関谷眞夫	
7	大野博文	○	22	高根沢武一	
8	岡田幸子	○	23	田代茂樹	
9	荻原正寿	○	24	寺崎政徳	
10	落合健太郎	○	25	人見みゐ子	○
11	河内賢二	○	26	平山明	○
12	君島理恵	○	27	平山忠	○
13	工藤海查生	○	28	松本勇	○
14	児玉幸弘		29	八木沢敏子	○
15	五江渕征子	○	30	山島哲夫	○

## 《 会議の内容 》

### 1. 開会

### 2. あいさつ

《会長》

今日は審議会としては最終日ということで、今までずっと議論してきて、その結果をパブコメや地域で説明した結果、修正等があるということで、内容についてご審議いただく。今日は最終回ですのでよろしくお願いいたします。

### 3. 議事

#### (1) 後期基本計画（原案）について

《会長》

前回の審議会で一通り内容を検討し、その結果をパブコメに出すということでご了解いただいたが、その後、パブコメ等いろいろ手続きをとられているので、その辺の経緯と内容の説明をお願いします。

<事務局>

それでは議題 1 番の後期基本計画原案についてご説明します。まず、原案説明の前に経過について、前回審議会の 10 月 28 日に後期基本計画（素案）を審議いただいた内容、修正点はこの後ご説明しますが、修正を加えた後に、地域説明会を 11 月 21 日にいきいきふれあいセンター、22 日に西那須野支所、24 日にハロープラザと 3 地区で説明会を実施した。地域説明会には 61 人の方に出席いただいた。併せてパブリックコメントを 12 月 5 日から 20 日まで実施し、ご意見を 1 件いただいた。地域説明会等については多くのご意見をいただき、内容については具体的な施策の実施に関するもの、個別の事業に関するもので、その説明会の場で回答させていただいた。これらの意見については今後施策を執行していく上で活用させていただきたい、そのような形で説明会等を終了したところです。

それでは、10 月 28 日の審議会以降に修正した箇所を簡単に申し上げます。資料 1 の後期基本計画原案をご覧ください。写真についても、後期基本計画に掲載する写真を 12 月 15 日から 1 月 13 日まで公募し、お一人から応募いただいた。その写真も載せて原案としてまとめたものです。目次の前に、「はじめに」という形で市長のあいさつが入ります。目次の次の序論と書いてあるページの写真は公募でいただいたものです。1 ページ目の那須塩原市の概況のページについて、前回委員の方からご意見をいただいた三本槍の表記を適切な内容に修正を加えた。次に 5 ページの市のあゆみの部分に 23 年度分を追加し、8 ページ総論の人口の推移の平成 22 年度数値について国勢調査の確定値が発表されたので実績として記載した。次に 22 ページについて、計画上の主要事業とほかの事業について財政の面からも精査した結果、財政の見通しも当初予定していたものから確定したので変更した。次に各論の分野別計画の構成が見づらいという指摘をうけたので大きさ等のレイアウトを

変えた。併せてこの各論の全体の中で、前回の会議時に、各主要事業の目標となる数値を「進捗値」としてイラストのみるひいの鼻と口のあたりに数値をいれていたが、見づらく表現があいまいだということで、全部「目標値」と表記を統一した。次に各論の29ページ、循環型社会の推進の施策の現状ところですが、前回の会議でご意見をいただき、クリーンセンター稼働の件の追加と、ごみの有料化の関係の中で、市民の皆様の協力のもと分別の徹底が図られてきたという部分を追加した。次に114ページの青少年の健全育成の施策の部分で、前回の会議で、現状の内容が事後的なものでグラフは事業数であり文章とグラフが一致していないというご指摘を頂いた。実際のグラフは事業数というのが正しかったが、文章とグラフの関係性をわかりやすくということで、現状の表記を訂正した点と、グラフを少年指導員の街頭指導数の推移というものに変更した。次に124ページ、効率的・効果的な行財政運営の推進という施策の中の具体的な施策として人材の活用と育成とあるが、市長の公約にある職員の公募制度という部分で、3行目の「また、」以降、専門的分野においては、豊富な実務経験、知識等を有する者の活用を有する者の活用を図ります、と付け加えた。それ以外に、目標値や現状値が調整中だったものに数値を入れて確定させた部分、あるいは事業の精査の結果、数値を修正した部分がある。また、スポーツ基本法が施行され、体育指導員がスポーツ推進委員に名称変更になったことに伴い該当する部分を修正した。前回の審議会以降、修正したものについては以上です。

《会長》

ありがとうございました。今のお話で、基本的には前回この場で議論した内容で必要な修正を行って原案としたということになります。今までの審議については事務局でとりいれたと思いますが、入っていないとか、疑問点があればまずお伺いします。

《委員》

質問の前におたずねしますが、この原案が最終的なものであって今日の審議会において修正されることがあるのか、ないのか。

《会長》

基本的に、前回この審議会で議論をして、その結果住民に示して、それを踏まえて直してありますから、大きな修正や、内容が異なってくるということは、なかなかこの場で修正と言うと、もうすでに住民の方に示した後で修正となるわけですから、ただ、いろいろな表現とか、分かりづらいとか、こうすればもう少し分かりやすいとか、そういうところは当然修正が可能だと思います。

《委員》

目次の中の各論の部分見ると、「基本政策2 快適で潤いのあるまちづくり」の中に「基本施策2-①災害に対する備えの強化と生活安全確保」「基本施策2-②地域防犯体制の推進」があり、「基本政策4 安全で便利なまちづくり」の中に「基本施策4-①計画的な市街地の形成」「基本施策4-②憩いの空間づくり」・・・とあるが、それぞれ中身が逆ではないかという感じがした。

《会長》

これは多分、この審議会で災害だとか何かを重視すべきだという議論が大分されて、それがこの部分に入ってきたと思うが、それでよろしかったでしょうか。

<事務局>

政策体系の中で、「2 快適で潤いのあるまちづくり」の中に防災、防犯等の安全に関する施策が位置づけられており、この政策体系は基本構想の中にあり、今回の後期計画も基本構想を継承するというもの。今回、基本理念に基づいて安心・安全を強化するということで、災害に対する備えの強化と生活安全確保という施策を追加したのですが、快適で潤いのあるまちづくりという基本政策の中に安心安全施策が含まれるという当初の基本構想にある施策体系を継承した。また、「4 安全で便利なまちづくり」の方は「便利な」の方が強く押し出され、市街地の形成や、憩いの空間づくり、といったような施策体系になっている。現行の施策体系の中に、防災部分も入れ込んでいるということです。

《会長》

全体をみると同じような表題になっていますし、ただ、4 番が「便利な」まちそのもの話であり、2 番の時の議論で多くの委員の方から災害対策が重要だということで、この施策をここに入れようということまでできてきたので、表現からするとちょっと合わないように感じますが、今から変えづらいというのがあると思いますがどうでしょうか。

<事務局>

参考に、20 ページにまちづくり大綱というのがありますが、今お話のあった基本政策の快適で潤いのあるまちづくり、その中に①安全に暮らせる地域づくりというのが前期計画の中にあった。その安全に暮らせる地域づくりが快適で潤いのあるまちづくりに繋がっているという話で、それをいわゆる 3. 11 を踏まえ災害対策の強化と地域の防犯を分けた形で今回整理した。災害、とだけみると、4 番目の安全で便利なまちづくりの方にリンクしているのではないかと、いう今のお話になると思うが、快適で潤いのあるまちづくりの方に、安全に暮らせる地域づくりという施策が前期計画にあって、今回特出しで災害として後期に入れた。安全で便利なまちづくりというのは、安全でなおかつ便利な、という部分で使われているもので、そういったところと前期のことを踏まえて整理したとご理解いただければと思います。

《会長》

これはもう少し前であれば議論できるが、全体に出してしまった後、ここを振り返るのは、行政的には苦しいかなということで、快適で潤いがあるのは安全が前提なんだということが入っていた、という風にご理解いただければと思います。

《委員》

111 ページの(1) - 3 で芸術文化環境の充実というところで、主要事業として黒磯文化会館運営事業があるが、ここにもうひとつ、那須野が原ハーモニーホールを入れてはと思う。ご存知のとおりハーモニーホールは大田原市と那須塩原市の、昔の西那須野町と

共同でやって、今でも那須塩原市は相当の予算をこれに割いている。110ページの利用状況をみると、黒磯文化会館と那須野が原ハーモニーホールの差はまだあるが、西那須野の住民は、黒磯よりは那須野が原ハーモニーホールの方がはるかに身近で、これも入れていただけたらと思います。

それからもうひとつ、(2) - 1文化財の保存・活用とありますが、文化財ではないが、例えば巨木の保存、古い建物の保存・維持、それから矢板市などでビューポイントというのがあり、ここから高原を望むと一番景色がいいとか、ここから箒川を見ると景色がいいとかいうのがある。私がある人に西那須野でも巨木、やったらいいんじゃないかと言ったら、西那須には巨木はないよと一蹴されたことがあり、市民の皆さんにもだんだん関心を持っていけたらと思う。

まあ、(1) - 3のハーモニーホールの方は、事業を1つ追加するだけなので、可能ではないかと思うのでお願いしたい。

<事務局>

今おっしゃられたことは大変よく分かりますが、ハーモニーホールの方ももちろん力を入れてやりますし、黒磯の方もやります。もともと、この計画の構成の仕方は具体的な施策の中で主要事業を1つ代表的なものをここにピックアップしようという形で整理したもので、載ってないものはやらないということではなくその中で代表的なものを載せて体系的にまとめている。そういう形でご理解いただきたいので、よろしくお願いします。

《会長》

確かに全部1個ずつしか書いてない。でも確かに、委員のいうように、1個しかやらないように見えちゃいますね。何か工夫できないか。一つだけ代表的な事業を例として載せているということがはっきり分かればいいと思う。これは、中身の問題というよりも、これを読むときに、そう理解して読んでくださいということ。

<事務局>

23ページに分野別計画の構成というのがあって、その中で⑥主要事業の内容に「具体的な施策を実現するために推進する事業の中から抽出した主要な事業です（原則1件ずつ）」とある。原則として1件で、実は放射能対策は2事業ですが、基本的には他は1件ずつで整理されています。

《会長》

確かに書いてあるが、ここを見るか？という話です。何か工夫をして目につくような形にしないと、今の意見と同じようになぜ入ってないのか、やらないのか、という風にとられるだけでなく、あなたは委員になっていたのに何で入ってないんだと追及されて困ると思うので。

<事務局>

その点については、明記する、という形で考えたいと思います。

《委員》

ただいまの意見に似たような意見で、生涯スポーツの振興の施策の中に主要事業として、青木サッカー場施設整備事業というのがある。これは黒磯運動場のサッカー場が青木に移るということになり、黒磯運動場サッカー場の跡地の整備は一連の事業、関連の事業であると思う。ただ、今の説明で主要事業1事業ということですが、ここの表現をちょっと変えて青木サッカー場の施設整備並びに黒磯運動場の整備、という風に直していただけないか。

<企画部長>

先ほどのハーモニーホールについては広域行政で、基本的にここには市の事業を載せているというのを確認いただきたい。もう1点、青木サッカー場の整備については決定しているが、黒磯運動場の整備は方向性がまだ決まっていない。いずれにしても、学校の廃校のことも含めて公共施設の利用については総括的な部分では書いているが個別の事例については入っていない。たとえば塩原の文化会館についてもその部類に入ってくると思います。そういうことをご理解いただきたい。

《委員》

その具体的な方向性が入ってない、だからこそこの審議会である程度の方向性を決めていくべきなんだろうと思う。

《会長》

具体的な事業としてここに書くというのではなく、今のご意見は黒磯運動場をどうするのかという話になるので、おそらく主要な方々がおられますので、そういう方々にきちんと聞いていただいてきちんと決めていただくということになると思いますので、この審議会の中でここで今すぐ、となるとちょっと難しいのかなと思います。ほかにいかがですか。

《委員》

先ほどの問題は表記の問題と思うが、23ページの分野別計画の構成が、この後の各論を読むための前置きになる。ここの部分の表記を変えればいいのではないか。たとえば、この資料を読む前に必ずご覧ください、これ以降の資料のみかた、というようなもっと柔らかい言い方で、必ず資料を見る前に目を通してください、と前置きがあれば、目を通してもらえるのではないか。もうちょっと、見開きにするとか、皆さんの目にとまりやすい工夫をすれば解決すると思います。

《会長》

素晴らしい意見ありがとうございます。1ページにまとめようとしなくて、こちらの説明をきちんとし、この見方について、と書いて、ちゃんと見てもらうように、2ページにした方がいい。委員の言ったように、是非これはやってください。

《副会長》

38ページ、市民協働による災害に強いまちづくりの推進で、平成28年度までに自主防災組織を214組織にするということについて、214というのは自治会の数で、具体的に214自治会があるから、214の自主防災組織を作りたいということで書いてある

のであれば、果たして本当にできるか。自主防災組織のそのものの内容についても検討しないといけないと考えている。今の214の自治会の組織の中に自主防災組織を作りましょうというのでは、できっこないですよ。今あるのが50組織、これで5年後到達度はどうだ、といっても大きなマイナスになってしまうと思う。そういう話題が地域説明会で出たか、でなかったか。私は、出しておけと言っておいたが。なかなか想定はできないと思うが、これでは多すぎるのではないか。

<事務局>

地域説明会を行った時に、全自治会214に自治防災組織ができるのかという意見があった。その際に、昨年の3月11日の震災を受けて、防災担当の部署でも今50組織しかない中で、全部できるのかという議論もしたが、目標としてそういう取組をしたい、主要事業であるから214すべての自治会に対して計画して支援をして、できるように後期の5カ年で望みたいということで、214を目標値とした経緯がある。地域説明会でもご指摘いただいた方に回答させていただいた。

《会長》

多分214自治会があつて、例えば180といたら、あと34はどこだとか、作ろうとしないのかとか、少なくてもいいのかと、そういう議論にもなってくると思うので、例えば今50だから100とかにすると、具体的な場所が出てきて書きづらいというのが本音でしょう。214全部に作ってもらわないと、どこが作らなくていいんだ、ということになるので、目標値ということでご理解いただければいいと思います。

《委員》

基本施策の地球環境の保全の中の目指すべき方向で、低炭素社会の実現とあるが、市民にとってどういうことを意味しているのか、例えばカーボンオフセットを広めたいのか何なのかという説明は前回なかったが、現存社会の中でそういうものを目指すのか分かりませんので、一般的概要でもかまいませんので、低炭素社会とは、と解説を入れた方がいいのではないか。

《会長》

ここで書いてあるのは、低炭素社会とは、クリーンエネルギーの活用等により二酸化炭素を排出しないということが書かれていますよね。

《委員》

例えば、我々消費者が買う時の、カーボンフットプリントという今後の表示の方法も具体化、検討されているところと思うが、そういった視点は我々としては踏み込まない、という理解でよろしいか。

《会長》

今のご意見は、低炭素社会の実現で実際に何をやるのかわからない、ということですね。具体的に例えば再生可能エネルギーの推進、省エネルギーの推進は具体的な話はわかるけれども、低炭素社会の実現は、再生可能エネルギーや省エネルギーを推進することが

低炭素社会を実現する一つになるという内容、全体の大きな目標だと思う。そうすると具体的に何やるのかがちょっと分かりづらいということだと思います。

《事務局》

これは、28ページの具体的な施策の中の、今環境管理課で進めている地球温暖化対策のいわゆる実行計画等の中で具体的に何をすべきかということをやったことになるであろうと思います。

《会長》

ということは、(1) - 1の施策、これは目指すべき方向(1)の具体的な施策1ですから、今、検討している、ということですか。それで24年度に地球温暖化対策実行計画策定事業というのをやって、その中で進めていくということですね。24年度までは具体的なものはちょっと待っていて、そこで決めるということですね。

では具体的な中身についてはここまでにして、今まで6回ずっと議論してきたので、計画を策定してこれから市が進めていくにあたってご意見等あると思います。全員から一言ずついただきたいと思います。

《委員》

前期計画の時も参加して、前はみんなの言葉を尽くした感じがしたが、今回はちょっと乗り遅れたかなと残念です。49ページの前のページに、ゆいの里がやっている街なかサロン「なじみ庵」の写真がある。安心してこのまちで最後まで、ということで、この西那須野地区は年が若い街ですが、ここで始まった街なかサロンという地域の高齢者さんが活動するという動きが、全国でも先進的ということで注目されてあっちこっち行ってプレゼンしている。那須塩原市の補助事業として補助金がなければできなかった。ただ補助金だけでもできないということをお伝えしたく、今回も東京で2回プレゼンする機会をいただいている。今年度も一般財源から補助金700万円をいただいて、その中で会員は150名、地域の高齢者・子供たち含めて年間16,000人位の方がなじみ庵を通過していろいろな関わりをしている。

那須塩原市内では言われないが、外からは「栃木モデル」とか「那須塩原モデル」という言葉もでてくるくらいで、公団を沢山作ったところが、今全部限界集落になっている。新宿はじめ、東京、埼玉、その公団の人たちが集まって高齢者住宅なんか財団の勉強会に行くと、そこに暮らしている高齢者さんたちで、いかにして付き合えるか、介護保険だけではできない部分、そんなことで、やっております。

《委員》

この後期基本計画に道路整備の事業が載っている中で、歩道の整備など書いてありました。街なかを走っていると、やはりまだ通学している子供たちの危険な状況の道路もまだたくさんあり、歩道も整備されていない。建設業界としてそうした意見を言っているが、なかなか仕事に絡むということできない。できれば一般の方が声を大きくしていただくことで安全安心なまちづくりに繋がると思うので、この場を借りてお願いします。

《委員》

最近選挙が終わり、首長さんも変わったようですから、首長さんにもこの趣旨をよくお伝えなさって、安全運転で進めるようにしていただければよろしいかなと思います。よろしくをお願いします。

《委員》

市政の市民アンケート調査におきまして、個別分野への要望はあったとしても、全体としておおむね満足しているという結果に私は納得している。これまでの議論の中での反省点としては、那須塩原市の強みと弱みの視点からの整理分析が若干不足していたのではないかなどの思いがある。また、長期基本計画の政策課題の補足として、例えば、単年度ごとの最重点政策課題を深掘りし、更なる濃淡のあるクライテリアの整理に着手する時間があればよかったのではないか。また、業界団体の皆様方からのご意見には大変興味深く拝聴させていただいたが、中小企業が生のアンケート調査が実施されるとさらに参考になったのではないか。今後それぞれの分野の取り組みが創意工夫とパートナーシップ、連携の強化が不可欠であり長期基本計画の実現に向けたさらなる活動をいっそう具現化されさらに満足した市民生活が過ごせるよう関係各位のご尽力に期待しております。また、余談だが、広報なすしおぼらは市の情報発信の機能として全体を網羅した利点があり、ホームページについては使用目的がある場合には非常に最適な情報発信の場としてともに充実したものになっていると認識している。最後になりますが、行政の一層の全体最適化の推進に向けた取り組みに対し感謝申し上げます。

《委員》

1 ページの下から 5 行目で、本市は交通アクセスに優れているということを表現したいんだと思いますが、鉄道については黒磯駅とか那須塩原、西那須野とか書いてありますけれども、東北自動車道の黒磯板室インターという表現をどっかで取り入れてはどうかと思いますのでご検討いただきたい。

《会長》

具体的な中身ですけれども、黒磯板室インター、この表現だと入れづらいですね。どこか入れられるかどうか検討して、そういう表現ができるのであれば入れてください。

《委員》

新しい市長の公約に、観光事業の発展というのがありましたが、これは後期計画に載っている。今のインターの件に付随し、第 1 に、未開発の板室温泉地域の観光開発が挙げられます。板室には深山ダム、沼っ原調整池、乙女の滝、木の俣園地、それに上の原園地というように避暑と観光を兼ね備えた快適な板室温泉がある。そのためには観光道の整備、国道 4 号線バイパス建設、開発途中の塩原温泉から板室温泉に通じる観光道路の整備、これをぜひお願いしたい。現在の国道 4 号バイパスに対しては、私、真岡に所用があり、夕刻、宇都宮バイパスが岡本、宝積寺を通りすいすいと帰宅した。ところが、野崎工業団地のところからバイパスがない。結局は夕刻、工業団地の通勤通学者が混雑してかなり時間

がかかる。これでは観光事業はいけない。

塩原から板室に通じる未開発の線を開発すれば観光客はかなり増えると思う。したがって観光地として生き残るためには、那須塩原市の自然と清らかな水のある財源豊かなまちづくりには、やはり道路整備が必要と思います。那須塩原市が発展するのを祈りし、提案して終わりとします。

《委員》

この審議会で、放射能について意見を述べましたが、市の対応がいろいろ行われて安心してこれからやっていけるかなあと考えています。学童保育では、放射線量の高い学童保育の周囲も今度全部除染していただけるということで安心して居る。子供たちも内部被ばくの測定が始まり体につけて 2 ヶ月くらい経っているそうだが、そういうこともきちんとやっていただいて将来不安のないようになったというのは本当にありがたい。この審議会に参加していろいろ感じる場所があったが、子供たちの教育・しつけについてもっと時間をかけてゆっくり話し合いたかった。今の若いお母さんたちは子供たちをしつけてない。もっと日本の精神文化というものをきちんと子供たちに伝えていく必要がある。洋間ばかりで座敷に座ったことがないという子供がたくさんでいて、正座ができないとか、正座したら足が短くなるとか、いただきます、ごちそうさま、そういった基本的なしつけが本当にできていないお子さんがたくさんいる。私は、地域づくりは人づくり、と思っており、ボランティアセンターなどにお母さんと一緒に、何かできることない？と子供たちが来るようなそんな世の中になったらいいと思っています。

《委員》

防災について、様々な噴火とか山崩れとかいろいろ含んでのものなのかという点と、市で対応できなかった時の安全の確保のための他市との連携とか、県への要請であるとか、緊急的なものというのは含まれているのか、確認したい。

<事務局>

委員のおっしゃるとおり、総合計画なので細かいことは書いてないが、地域防災計画というのが防災に関する市としての個別計画になっている。この地域防災計画の中に風水害とか噴火とかという形でそれぞれ構成されており、その中で対応について細かくうたわれるような形になってくる。各市、各県との災害時の連携の関係については、どのように連携するのかこの地域防災計画の中に細かく記載されているとともに、これを 3 月 11 日の震災にあわせて再度見直す、ということです。

《委員》

観光の面から言うと他県からウェルカムで皆さん来ている時に非常事態が起こった場合、仕事で来ている方もそうだが、そういう方に対してもきちんと旅館等に案内できるそういう緊急避難的なもの、対応マニュアルのようなものも検討いただきたい。

《委員》

黒磯那須青年会議所でも、去年の暮れに再生エネルギーに対しての提言書というのを作

り今後提言させていただくことになるかもしれませんが、今回の原発から始まったエネルギーの問題については、こちらの計画にも書いてあるが、再生エネルギーに関しては地域が一つになって考えていこう、未来の子供たちによりよい地域を残してあげようということで地域のためにいろいろ考えさせていただきました。今回、行政大綱ということで後期計画に参加させてもらって、ひとつ自分の中でずっと感じていたことがあって、那須塩原市5年たっているのに今も一つになっているという感じがしない。旧塩原、旧西那須野、旧黒磯という枠がずっと残っている気がして、何か一つこういう計画が新しくできたことでその枠が取れて、地域が思いやりをもっていければなと感じました。

#### 《委員》

やはり震災以降、情報が一番大事だということで、震災が起こったときに固定電話はパタッと止まったが、あれは交換機を通してのせい、交換機で規制をかける。しかしあの時でもつながったのはIP電話とインターネットの無料電話。知っていればああいうものを使えばいいと分かるが、なかなかそういうことは分からないのが普通。これからは何かあるか分からないので、例えば震災が起こった時の保育園の連絡体制をどうするかとかそういう問題がある。ここには全然入ってないがそういうものを検討していただいて、あと買い物弱者はこれからどんどん増えていく。この前NHKでやっていたが、iPadを家から出られないような人の所にもって行って、これを見せて買い物させる。それでこのiPadをそのまま渡しちゃう。そうすると皆買い物ができる。こういうこととか、これから益々高齢化社会になるし、ITを活用したものを、今回の中にはないが検討していただきたい。

#### 《会長》

ITは日進月歩でどんどん変わっていますから、おそらく次の総合計画やる時はそれにはたくさん入ってくるだろうと思います。そういう面はこれから検討して、地域防災計画もそういうことですね。

#### 《委員》

私も同じようなことで、私は塩原地区から参加していますが塩原の地区にいますと西那須野と黒磯と両方が見られる。合併して5年がたつが、西那須野の方と黒磯の方の温度差がかなりあると、部外者みたいな立場で言うとすごく感じた。今まで私も市政に対してあまり興味がないというか、積極的にかかわってこなかったが、この総合計画審議会に参加して非常に市政に目がいくようになった。今回もパブリックコメントと地域説明会がある時、インターネットなどでそういうのがありますので皆さん参加してください、と情報発信はしていたが、地域説明会が61名、私もハロープラザで参加したが10人くらいで、パブリックコメントはたったの1件、各支所にも用紙が用意されていたにも関わらず1件、たぶんこれは那須塩原市放射能から子供を守る会からのものではなかったかなと思うが、市民の方々はどうだけ市政に目が向いてるのかと考えさせられるいい機会になった。何が一番大事かと言うと先ほど委員がおっしゃったように情報発信だと思う。ツイッターとか

フェイスブックとかグーグルプラスとか媒体はいろいろある。那須塩原市もせっかくツイッターを始めているがまだ情報が一部に偏っている。もう少し市民に関わってくる情報、地域の情報とかをこまめに発信してあげるとフォロワーの数も増え、そのフォロワーがまた口コミなどで、市民が行政に対して目が向くのではないか。インターネットを活用していただきたいと思います。

あと、放射能対策に関し、非常に強く私は申し上げまして、いろいろな対策をとっていただいたことに感謝している。ただ、今お母さん方の話を聞くと一番感じるのは学校との壁。または、ほかの父兄との壁、一生懸命意識して問題意識が高くて勉強しているお父さんお母さんほど疎外感を感じている。それはなぜかと言うと、学校関係従事者に対する情報不足というか、学校の先生方校長先生方といった方があまり危機意識を持っていない方が多い。ここの地域は大変なことになっている地域。今日も非常に風が強く土ぼこりが舞っていますがこの土ぼこりと一緒に放射性物質も舞っているのは間違いない。例えばこういう日、登下校時にお子さんにマスクをしてきてくださいとかマスクをして帰らせるとかそのような具体的な放射能の知識というのをもっと教育関係者の方が持っていたかないと一生懸命勉強してる方は本当に不安に思っている。先ほど福祉の件で那須塩原モデルということを書いてましたが、この間選挙があり、阿久津候補、君島候補、いろいろ放射能対策お話をさせていただき、その時に出た言葉が、やはり那須塩原がほかの地域を引っ張っていく、那須塩原モデル、そういった形で、確かにここは高くていろいろ問題がある地域だが、一生懸命市がこれだけのことをやっている所以我们は安心してここに住めますよ、っていうくらいの、逆に福島あたりからここに皆さんが来ていただけるくらいのその位の気概を持って対策にあたっていたきたい。そういった中でお母様方から言われたんですけど、お子さんが内部被曝に関して、例えば 1 週間高い地域から離れていると、大分体がリセットされるということがある。林間学校とか旅行、お子さんの学校の研修旅行みたいな放射線が低い地域にもっていったらいいですよ、ということをお願いしたら、あるお母様から、それは塩原温泉でも板室温泉でもいいんです、っていうような話があった。幸い塩原も板室もこの市内においては放射線量が低い地域であることは間違いないので、そういった形で活用していただければ、今回のキャッシュバックキャンペーンということで 1 億円という予算をいただいて私たちも大変ありがたかったんですけど、せっかくいい板室と塩原と、いい温泉がありますので市民の方がもっともっと市内の温泉を利用していただければなど、そういうちょっとしたヒントがあるんじゃないかなと思いますのでぜひその辺のところをよろしく願いいたします。

《委員》

毎回資料の方確認させていただきまして、人口が減っていくという状況が分かっている中で、今後どうわれわれ市民として、市政に対して参加できるかというところは一つ考えさせていただける機会だったかなと思う。私も同じように那須塩原市、まだまだ一つになっていないという風を感じる。私は高齢者向けの住宅の方運営させていただいているが、

那須塩原市の本庁の方だときちんと応答があるものが西那須野支所に来ると、それは本庁に聞いてくださいと言われてしまう。ここももともと本庁だったところなので、こちらでも回答がいただけるようにしていただけるとよいのではないのか、うちのお客様でもやはり同じように本庁に行ってくれと言われる、数年前までは本庁だったわけで、なぜ黒磯まで行かなきゃならないのかというような思いはある。まだまだ那須塩原市という見方ではなく、市民が旧西那須野、旧黒磯、旧塩原という見方がまだまだあるからなのかなあという感じはするが、ただできればそのあたり、こちらでも対応していただけるようお願いしたい。

《委員》

私は実はこの 3 月に震災で被災してしまいまして市の方の仮設住宅をお借りしまして 9 か月ほど住んでいた。そこの放射線が庭は 0.6、お部屋は 0.2 から 0.3 というところに 9 か月もいたので、それらもあり放射能対策の方強化していただきたいということ、それから区画整理はできていますが防犯対策ができていないので強化していただきたい。

《委員》

放射能対策については、私前々回にお話ししたがその対策を市で確実に実行していただいて大変ありがたく思う。先日成人の日を含めた連休の時、自宅の放射線を測ってみた。室内で 0.1、外に出ると 0.4~0.5、それから排水溝が 0.7、比較的市役所に近いところだがそんなデータが出た。まだまだ安全ではないと、測定すると痛切に感じる。そこで一つ、先ほどから地域による温度差というのが何人かの方から出ているが私もそれを年寄りなりに感じる。は私のような高齢者ではなくて若い人たちが施策検討に出席すればこれが打開できるのではないかと、こんな気持ちでいる。それから先ほどもでました子供の安全、私毎日通学路に立っているが、通勤時間と子供の通学時間が同じで、子供たちに歩道があったら安全だなということを痛切に感じている。それからもうひとつ、先ほどでた板室塩原路線は県の方で、自然破壊になるということでやめて、私も何回かそこに行ったが崩落状態がひどくて再生は不可能。もし再生すると大きな自然の破壊を伴うのを覚悟でやるのであればと思います。それから、先日 NHK で目指せ日本復活という番組を見た。その中で中小企業の活性化、これが市を作る基盤になるんじゃないかという話を聞いた。それから、岡山県の真庭市、真庭の里山というところで、ペレットによる廃材利用による発電、こんなことをテレビで見た。再放送された際に見る機会がありましたら、私自身は大変勉強になった。この会議に参加させていただき本当にありがとうございます。できれば次回は若い人たちに協議してもらいたい。次世代を担う若い人たちに協議してもらってほしい施策検討会になってくれればと思います。

《委員》

昨年 1 年を振り返っての漢字が一文字で「絆」という文字でした。それは皆さんもご存じのことだと思います。社会福祉協議会は皆様のご協力をいただき福祉を進めていく。この地域福祉の実態づくりは、これが形だというものがなく、それぞれが参加をしながら協議

をしながら、それぞれ那須塩原の地形にあった地域福祉の進め方があるんだろうと思う。それには、皆様から意見を頂戴したり、一緒に活動していただいたりということが何よりも大切。また、ここ1週間ほど下野新聞の特集記事で箒根中学校の生徒さん達がボランティア活動をされたという記事が載った。1月19日に石巻市の運動公園の仮設住宅に箒根中学校の生徒の皆さんに行って、それぞれの中学生が活動しながら様々なことを思ったというようなことが書いてあるので、機会があれば目を通していただきたい。そのように子供たちのやさしい気持ちを支えていけるような、あるいはそういう気持ちが出せるような事業を進めていきたい。

《委員》

今、日本経済は急激に失速しており、先ほど、どなたか委員さんが、中小企業がしっかりして地域を盛り上げなければというお話があった。栃木県下75%の法人が赤字決算ということで、全国はもっとひどい。81、2%の法人が赤字決算をしている。ということは那須塩原市も状態が非常によろしくない。噂によるとブリジストンも一部50年くらいたつので建て替えや何かの関係で一部撤退という話もある。税収の入りが非常に悪くなるということ。せっかくこのような素晴らしい青写真作っても実際は何%達成できるのかなというように危惧をするところでもある。優良企業というのは今国内にいてもどうしても利益を上げられないということで、海外に出て行ってしまう。そうすると国内に残るがんばっている中小企業、一流企業でも元気のいい話があるのは海外に進出して業績を伸ばすというような発表で元気がいい訳で、国内でこれだけの業績をあげるという話一つもない。したがってどうしても後ろ向きな考えになってしまう。去年の国勢調査以来、那須塩原市も少しずつ人口が減っているという。転出していく内訳は放射線量が高い地域から宇都宮以南の低い地域へ移動というようなお客さんがほとんどだそうで、この放射能の高値がいつ頃だいたい下がってくるのかそれすら分からず、どうしても元気のいい発想ができない。そんな中、早くこの放射能問題が鎮静しせっかくこうして作った基本計画、できるだけ高い水準で実行できるようにお願いをいたしまして、終わらせていただきます。

《委員》

94ページですが、(目標値が)減少していく部分に対しては目標という文字を外していただけだと思うがいかがでしょうか。

《会長》

例えば具体的な施策(1)－4の目標値が現状510戸から目標値450戸というところですね、これは逆に450戸は維持したい、という目標だと思いますが、そういう意味ですよ。これ以上減らなさいという目標ですね。

《委員》

減らさないという目標、そういう風にもとれますね、すいません。あと23ページ、前回も上の部分を見やすくしていただけたらとお願いしたわけですが、先ほど思っているように説明してくれましたのでその部分はよろしくお願ひしたい。あと、長くかけて施策の内

容を検討してきたので速やかに実現されることだけ願っています。私も農観商工連携部分については協力しながらやっていきたい。

《委員》

前回、前々回と残念ながら欠席してしまい、今日もうすでに最終案ということで、最終案についてどうこう言うつもりはまったくないし、素晴らしい案と思うが、私的には子供たちの安全な登下校について触れてほしかった。那須塩原市は登下校中の子供たちを断固守るとか、それに対する具体的な施策なんかが盛り込んであればよかったな、と思う。平成17年の今市の事件以来、いまだに市内では地域の皆さん、ボランティアの皆さん、特に下校時に地域のボランティアの皆さんに協力いただいて要所・要所に立っていただいて、というようなことがいまだに続いている。それに対して市の方はもっと注意、興味を持っていただいて、もっとフォローしていただきたい。そして市の方の意識としても子供たちの登下校の安全を絶対守るんだというものを持っていただきたいので、今日、副市長をはじめ、幹部の皆様方いらっしゃいますので、そんな意見があったということ認識していただければと思います。この計画が計画倒れにならないように実行して、那須塩原市がどんどん発展していくように、私たちも協力できることがあれば協力していきたい。

《委員》

皆さんから意見がいろいろ出ましたが、全体的には6回の委員会の中で細かいところまでまとまっているという気がします。産業振興の関係で、前期の計画から見ますと、農観商工連携による地域産業の活性化という施策が増え、この事業については商工会だけでは今どうにもならない。中小企業、大変厳しい状況にある。ここ、十数年来、経済界いい話がまったくない。そんな中で放射能の、いわゆる那須というブランド、名前がよかったものが、逆にここへきて、那須が入っているだけで、いわゆる生産を行っている食品関係の会社などは何社か非常に売り上げが落ちているというようなことを聞いている。いかに商工会なんかが正しい情報を県外に流すか。隣接の商工会とも連絡を取りながら、全体の中では南那須も入れて「那須」というのをどんどん使ったPRをやってきたが、それを取り戻していかなければならないと考えている。特に87ページの地域産業の振興事業の目玉にいわゆる地域資源の活用というのがでていますが、特産品づくりをこれから重点的にやっていかなければならない、行政と経済界と一緒に、拠点作りをしていかなければならない。特に県の方で何回か会議でお話ししたが、県知事の肝いりでミルク街道という、街道づくりの事業をやっているが、現実に拠点作りがまだまだ十分できていないために他県から来たお客さんからミルク街道ってどこにあるんだ、という話も実は聞いている。現実にミルク街道の名をつけても、実際にお客さんはどうなんだろうという話があるので、この辺は行政同士の県と市との連携、それからあと経済界、商工会、農協一緒になって取り組みをしていきたい。それと、黒磯の駅前の駅前広場の整備というのが今回新しく27年度までの事業ででており期待している。ハード事業に対して、ソフト事業をいかにタイアップしてどういう風に取り組んでいくか。カワツタ家という小さな、誘客対策、雇用対策を含めてや

っている。その辺も一緒になって、これから 28 年度まで整備される駅前広場の整備に対して期待し、またどのような具体的な整備がなされるのか関心を持っているので、その辺についてもいろいろご指導いただきながら、駅前ですと今の状態ではお客さんは年々減っていると、そんなことも含めて今後ともお願いしたい。

《委員》

先ほどから放射能対策のことでお話はでておりますが、私は放射線対策のところ、食べ物に関していろいろな方がいろいろな方面で安全ですということをおっしゃっていますが、実は私、遠くにいる親せきから栃木のものは食べないよ、と言われる。本当に悲しいことだが福島原発から 100 キロ圏内ということで、心配するのは当たり前。この間も、輝きネットで農家で作るものでなく家庭菜園で作ったものとかを調査をするのを手伝ってほしいというお話があったが、素人の私がそれをやって正確なものがでるか心配でとてもできなかったが、例えば与一の里直売所では、持っていくと測ってくださる。それでこれは大丈夫よ、だめよと言ってくださる。最初は職員がやるけれど、職員では間に合わないのでボランティアでやってほしいというお話があったが、こちらにも人を専門に雇って市として食べ物の調査っていうか測ることを積極的にやって本当に安全ですということ、風評です、安全ですというけど栃木のものは食べませんという方は多い。そして地元の方も子供さんがいる方は、産地も選んで食べているので、是非とも食べ物、校庭の庭も大切ですけど直接口に入れて毎日のことですので、是非とも特化して対策をお願いしたい。

《会長》

今までいろいろなご意見出ましたが、最後に包括的に。

《副会長》

最終的にまとまりました。今までの皆さんの感想について一通り記録をさせていただきました。大変ご苦労さまでした。最終的に私は、この基本計画について第 3 編の後期基本計画における重点的な取組、これに尽きると感じます。特に安全に安心して暮らせるまちづくり、ここで問題になってくるのは、自主防災組織をどうするか。実際に 3 月 11 日に私たちが経験すると市で援助いただいた防災組織、何の役にも立たない。これについては早々をお願いしたい。それから放射能対策は今まで出ていたとおりです。ただ、公共施設については実施しておりますが具体的には、例えば金沢小学校地区で 1.0 以上、学校の近く、しかし金沢地区の家庭についての除染はどうすればいいんだ、というような心配をしている、行政はどうしてくれるんだろうなという問い合わせはこの間もあった。これに対する対策も今後必要と思う。特に先ほどでていました児童館についても要請をしてお願いをしていただけたらと感じます。それと子育てについて、かなり家庭生活環境が非常に大きく変わっている。したがって公立の保育園の民営化というようなことや、児童クラブの民営化ということで、家庭教育の中で、学校もいろいろな問題を抱えている障害児、特に行政として手助けができる施設設備を考えていかなければならないと感じる。それから市民との協働によるまちづくり、協働のまちづくり指針策定委員会というのがあり、指針を作り上げ

ました。具体的にどう実施するのかということは、数日前、宇都宮市で協働のまちづくりについて指針を住民に知らせたというような新聞にでていたが、具体的にどうするかということについても、かなり進んでいるというような感じを受けた。従って、地域差、つまり西那須野、黒磯、塩原という格差があるということについてはこういうようなところからある程度共通したものをもっていくような施策をお願いしたい。地域の住民も市の職員もこれについての検討が必要である。続いて個性が輝くまちづくり、あるいは効率的・効果的な行財政運営による自立したまちづくりということについても、大きな項目はあるが具体的にどう進めるかということは今後の大きな課題だろう。したがって行政の立場から住民の指導助言、あるいは、住民からの意見の収集ということについて参考にさせていただいて、なるべく早く、もう合併して8年になろうとしている。地域差があるということではなくて、那須塩原市全体をどうするかということに、住民あるいは行政も目を向けていただいて、総合計画後期計画についての実施をお願いをしたい。大変ご苦労さまでした。

《会長》

大変どうもありがとうございました。皆様から今貴重な意見がたくさん出ましたのでぜひそれを踏まえていっていただきたいと思います。議題1の原案については今日お話しした多少の修正はございますが、こういう形で原案として市長に提出させていただくということとしたいと思います。

では議題2の後期基本計画の答申について、事務局から。

<事務局>

資料2をご覧ください。本日の審議会において皆様方から頂いた意見、こちら原案に修正を加え、この添書を付けて市長に答申という形で考えております。その方法につきましては、第7回の審議会に代えて会を代表して山島会長から来週の木曜日2月9日に市長に渡していただくという方法をとらせていただきたいと思いますと考えております。

《会長》

そういうことでよろしいでしょうか。今まで6回にわたっていろいろ意見をいただきまして、今日総括的な意見をいただきまして、そういう思いは市長にもお伝えしたいと思えます。ただ、お話の中で3地区がまだ一つになっていないという意見がありましたが、前期計画の中で3地区を一緒に考えると言って、前期計画から入っている人はそういう意識があって、やっぱり5年たってもなかなかそうはいかないというのがあるようですが、そこは、5年ではなかなかならないので、10年くらいはということで少し気長に考えてだんだんになっていけばと思います。あと一つ、今日ここにお集まりの皆様は各界を代表している方、それから公募で出てこられた方、この審議会で議論していろいろ意見が出て、これを実施するのは市民との協働ということですので、市と共に、やりなさいというのではなく、那須塩原市の各界の代表が網羅されているわけですので、まさにこの書いてある答申のこの原案そのもので、市民との協働、皆さんは市と協働でこの計画実施にあたっていただければと思います。

最後に一言言いたい方、おられれば。

《委員》

放射能のことがよく出てきたが、私の知り合いの大槻教授が、放射能は、少量であれば逆に体にいいんだと言う。一番悪いのは放射能ストレス。なぜ体にいいかという放射線が中に入ると放射線を出して遺伝子を傷つける。遺伝子を傷つけるがそれ修復する機能が人間にはある。だけどがん細胞にはない。だから少量の放射能は逆に体にいい、そういうことなので栃木の食べ物はどんどんオッケー、結構だと思いますから。

《会長》

先ほど栃木のもの食べないって言われてるということでしたが、私はこちらの家では全部栃木のもの食べています。みなさんもどんどん食べていただけたらと思いますので。

《委員》

ちょっとだけ今の見解に、おそらくこの中で実際に食物測ってらっしゃる方いらっしゃらないと思うんですが、私は旅館でお客様に安全な食べ物を提供しなくてはならないということで自分で測っている。今回市との協働ということで各市庁舎に入る測定器の測定の協働、そちらも手を挙げています。これはもう自分たちで測っているからそういうことができると思っています。先ほどおっしゃったように、自分素人が測れるかどうか、そういう心配も非常に難しい問題だと思う。測ってコンピューターで読み取ってくれるが実際にその数字をどう読むかが非常に難しい。那須町で始まっていますが那須町の方では、今基準が 500 ですから、500 で超えていなければ安全です、超えていればだめですよということですけど、もうちょっと深く測らなくてはならなくて、測れる機械ということで、そういったことの対策は那須塩原市はやってると思うが、外部被ばくに関してはそれほど神経質になる必要はないことは分かるが、体の中に取り込まれたものだけはいろいろ問題があるので、まずは測って、測って初めてものが言えると思う。いろんな意見があるし、いろんな立場の方がいろんなことをおっしゃいますけど、先ほども測ってどうのこうのとおっしゃっていましたが、機械を導入していただいたことは市に感謝しているので、今後市民の方がたくさん活用して自分の目で確かめるのが一番大事と思う。先ほどの大槻先生のお話は私も伺っている。いろんな立場の人がいろんなことをおっしゃっていますのでまず自分で知識をもって自分で判断できるような術を皆さん市民一人ひとりが持つことが大事だと思いますので、それだけ申し上げます。

《会長》

どうもありがとうございます。

その他の議題というのはございますか。

<事務局>

来週答申をいただき、これから市の内部でこの貴重な皆様方のご意見の原案、これをもとに協議してまいります。この原案について修正等した場合には委員の皆様には通知等でお知らせする形で考えておりますのでよろしくお願い致します。

《会長》

では、議題はこれで終わりですが、閉会でよろしいですか。

本当に皆様方、活発な議論でいろんな意見で、立派な原案ができ上がりました。どうもありがとうございました。